

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Low bone mineral density and impaired bone metabolism in young alcoholic patients without liver cirrhosis: a cross-sectional study.</p> <p>肝硬変のないアルコール依存症の若い患者における骨代謝の障害と骨塩量の低下について: クロスセクショナル研究</p>	
執筆者	
Malik P, Gasser RW, Kemmler G, Moncayo R, Finkenstedt G, Kurz M, Fleischhacker WW.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2009 Feb;33(2):375-81. Epub 2008 Nov 25.	
キーワード	
骨粗鬆症、アルコール依存症、骨塩量	
要 旨	
<p>目的: 骨粗鬆症はアルコール依存症でしばしば認められている。エタノールの直接の骨代謝への影響と同様にアルコール依存による生活習慣の変化、栄養失調や運動の減少、ホルモンバランスの変化、肝硬変などが潜在的な因子として挙げられている。</p> <p>方法: 27歳から50歳までの57名の肝硬変のないアルコール依存症の患者を対象に調査を行った。全身性疾患の合併や、骨代謝に影響を与える薬剤、グルココルチコイド、ヘパリン、抗けいれん薬、経口避妊薬を投与されている患者は除外した。骨塩量はDXAを用いて腰椎レベル(L1-4)及び右の大腿骨近位端で骨代謝も骨塩量と同様に測定した。</p> <p>結果: 男性では骨塩量は有意に減少しており、9人(24.3%)の男性と一人の女性(5%)は低骨塩量であった(Zスコアが-2.0以下)。想定されたように、骨塩量はBMIと正相関を示した。アルコール関連因子(依存症の期間、飲酒量)と同様に喫煙も骨塩量と有意な関連を認めなかった。女性では骨塩量の減少に予防的働くエストロジェンの量が増加していた。この研究では75.7%男性と90%の女性がビタミンDの減少または不足であった。</p> <p>結論: この研究では若い他の疾患のないアルコール依存症の患者では骨塩量の低下のリスクが増加し、ビタミンDの欠乏の健康を認めた。栄養因子や日光暴露の減少は若いアルコール依存症患者の骨量の減少に大きな影響を与えているだろう。骨塩量の測定は骨代謝の評価は慢性のアルコール依存症の患者に対して考慮されるべきであろう。</p>	